

系所(組)別：日本語文學系

M-2-1

考試科目：日本文學史

問題一：次の文章は、日本の近代文学について説明しています。空欄 (01) ~ (20) に入れるべき「作家名」または『作品名』を日本語だけで解答しなさい。(60%)

明治維新によって日本は近代国家として歩み始めた。特に啓蒙思想がもたらした西洋文明に新奇な題材を発見した戯作文学作者の「(01)」は、福澤諭吉の『窮理図解』にヒントを得た『胡瓜遣』や新しい食文化としての牛肉食を背景とする『(02)』、江戸時代の『(03)』を原作として旅先を西洋に変えた『西洋道中膝栗毛』などを発表した。しかし、戯作文学は、題材こそ新しかったが、その発想は滑稽本の流れを汲むものでしかなかった。そうした前近代的な発想を排し、文学を革新したのが漢詩に対する新しい表現形態の詩を紹介した明治十五年の『(04)』であり、写実主義を説き、人間心理を描く小説について論じた「(05)」の『小説神髓』であり、この『小説神髓』に刺激された「二葉亭四迷」は、言文一致運動を背景として、小説作品『(06)』を発表した。その一方で新しい文学の模索を背景に文体改良などを始めた硯友社の「(07)」は写実主義的手法で女性を描くために早くフランスのゾラなどに学んで、明治二十九年の『多情多恨』を発表するに至るが、後の『金色夜叉』で一世を風靡した。彼の弟子である「(08)」は、『高野聖』で知られる浪漫主義文学の作家となったが、この浪漫主義文学の先駆者は『舞姫』の「(09)」である。この「(09)」は「幸田露伴」とともに新作批評を行い、その中で発見された浪漫主義の女性作家が「(10)」である。彼女は『たけくらべ』や『にごりえ』、『十三夜』など明治時代の女性を主人公とする名作を残して早世した。また詩歌でも浪漫主義が強調され、その代表の一人が歌集『(11)』の女性歌人・「与謝野晶子」である。

明治四十年前後には浪漫主義詩人から転向した二人の作家による小説が自然主義文学の代表作として認められた。その二人とは『破戒』の「(12)」と『蒲団』の「(13)」である。前者の社会的な問題意識から転じて、後者の自己体験的な告白の方に重点が置かれるようになると、自然主義は私小説へと変貌していった。変貌した自然主義に対する反自然主義文学の担い手となったのが耽美派の「永井荷風」、そして『刺青』や『痴人の愛』の「(14)」であり、あるいは白樺派の「武者小路実篤」や「志賀直哉」、さらに『或る女』で知られる「(15)」らであった。また、「夏目漱石」も反自然主義の作家として認められている。なお、白樺派の理想主義に対して、現実的で理知的な傾向を持ったのが『羅生門』や『地獄変』、『河童』で有名な「(16)」を代表とする新現実主義の作家たちである。

第一次世界大戦後の不況と関東大震災後の弾圧に耐えたプロレタリア文学運動と一時的に協調したのが新感覚派の作家である。その代表が『蠅』・『頭ならびに腹』・『上海』などの「(17)」と『伊豆の踊子』で有名な「(18)」であった。

第二次世界大戦後の混乱の中で、「(14)」の『細雪』や「(19)」の『斜陽』・『人間失格』などが発表され、そうした既成作家の作品に混じって、戦後派作家である「(20)」の『仮面の告白』や大岡昇平の『武蔵野夫人』などの作品も注目を浴びた。

問題二：次の古典韻文文学用語を簡潔に説明しなさい。なお、解答は、できるだけ日本語を使用しなさい。

(20%)

ア・「記紀歌謡」      イ・「万葉仮名」      ウ・「枕詞」      エ・「歌物語」      オ・「歌枕」

問題三：次の古典文学作品について簡潔に説明しなさい。なお、解答は、できるだけ日本語を使用しなさい。(10%)

A・『新古今和歌集』      B・『好色一代男』

問題四：平安時代の物語文学について、詳しく説明しなさい。なお、解答は、できるだけ日本語を使用しなさい。(10%)